

| | |
|---------------------|----|
| 話題の治療 脳神経外科 林悟 | 2 |
| 精神科 50周年に寄せて 明神和弘 | 6 |
| 新CT導入について 岸田豊和 | 7 |
| 感染対策・医療安全作品コンテスト | 8 |
| 第4回病理解剖体慰霊祭 円山英昭 | 9 |
| 第一回近森会グループ学術集会 2018 | 12 |

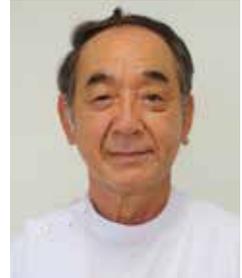
www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231
発行●2018年2月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

循環器内科開設 30周年

何が本当に必要かを考える医療を

近森病院ハートセンター長

内科部長兼診療担当理事 浜重 直久



医師7人から医師約45人へ

1988年に近森病院に着任し、循環器内科を開設後30年になりました。当初は内科全体で医師7人、病床数60床、年間新入院患者1000人以下でしたが、1992年の新館（現B・C棟）オープン、2000年の心臓血管外科開設、2003年の地域医療支援病院認定、2010年社会医療法人認定、2011年の救命救急センター認定、2011年の外来センターオープン、2014年の新本館（現A棟）オープンなどを経て、たくさんの医師が集まってくれ、現在内科では医師約45人、病床数約280床で年間新入院患者7000人以上を診療しています。

specialist である前に general physician として

当初より、救急医療の砦として専門領域にとらわれず何でもひきうけること、入院や外来の患者さんを通して若い医師を育てること、病診連携によって地域医療のレベルアップに貢献することなどを意識してきたため、まずは

specialist である前に general physician として patient-first の reasonable な医療を心がけてきました。

全国でも有数の循環器チームに

循環器の領域では、楠目修先生（現土佐楠目会理事長）と一緒に1989年に冠動脈造影（CAG）、1990年に冠動脈インターベンション（PCI）を開始しました。当初はDSAをつかった年間それぞれ100例以下、10例以下のほそぼそとしたスタートでしたが、次第に症例数が増加し、2000年の心臓血管外科開設（入江博之現副院長）、ICUやカテ室のリニューアルなどを経て、現在では循環器内科18人、心臓外科6人で、昨年は年間CAG・1715件、PCI・571件、心臓大血管手術・285件を数えています。

2009年以降は、川井和哉主任部長（現副院長）を中心に、PCI（山本哲史、西田幸司部長）や心エコー図など（窪川渉一、中岡洋子部長）だけでなく、

不整脈（深谷真彦、要致嘉部長）や末梢動脈疾患（関秀一部長、今井龍一郎科長）の治療、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）などにも力を入れ、中国四国はもとより全国レベルでも有数の循環器チームになってきています。これまで多くのスタッフを派遣していただいた、高知大学・小澤利男初代教授、土居義典前教授、北岡裕章教授、東京医科大学・山科章前主任教授、岡山大学・佐野俊二前教授をはじめ、昼夜を問わず献身的なサポートをいただいているメディカルスタッフや歴代研修医の皆さん、患者さんの紹介やフォローアップに協力していただいている地域の先生方に、心よりお礼を申し上げます。

何が本当に必要かを考える医療を

近年の社会全体の economy-first の風潮の中で、ともすれば医療収益や手術件数の増加にとらわれがちになりますが、医療費は公のものでしかも有限であるという当たり前の事実を意識しながら、何ができるか（what can I do?）ではなく何が本当に必要か（what should I do?）を考える医療をこころがけ、いつまでも患者さんや地域の先生方に信頼される近森病院循環器チームでありたいと思っています。これからも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

はましげ なおひさ

■ 近森病院院長交代のお知らせ ■ 2018年2月9日付で、社会医療法人近森会理事長近森正幸が近森病院院長を兼務いたします。



脳神経外科手術の進歩 神経内視鏡、モニタリングなど

近森病院脳神経外科

部長 林 悟

脳神経外科の手術で数年前から採り入れているいくつかの道具をご紹介します。

● 神経内視鏡 ●

硬性鏡と軟性鏡があり、脳内出血や下垂体腺腫、脳室内の腫瘍や水頭症で使用します。当院では硬性鏡を使った脳内出血の血腫除去がほとんどで

す。小さい傷で手術することができ、侵襲が少ない利点があります（図1）。

● ナビゲーション ●

手術前のCTやMRI画像を取り込ませることにより、カーナビゲーションのように手術中に操作している部位が頭のどの部分なのかを確認できる装置です。脳腫瘍の摘出や神経内視鏡を血腫まで挿入する際に役に立ちます。

● モニタリング ●

当院では主に未破裂脳動脈瘤のクリッピング術で行ないます。全身麻酔で手術を行ないますので、仮に正常な血管の血流障害が起こっても、従来は麻酔が醒めるまで障害が分かりませんでした。手術中に脳や手を弱い電気で刺激することにより、脳に障害が生じていないか、全身麻酔中でも確認でき

る方法です。麻酔科の先生や生理検査技師の方々のご協力のもとで行なっています。

● インドシアニングリーン (ICG) 術中蛍光血管撮影 ●

手術用顕微鏡に搭載されており、術中に脳血流の状態を確認できる方法です。とくに脳動脈瘤クリッピング術で有用で、動脈瘤が問題なく処置されているか、周囲の正常な血管の血流に問題がないかどうかを確認することができます（図2）。

これらの方法を使い、経験や勘だけに頼ることなく安全に手術を行なっています。

はやし さとる



▲▼図1. 神経内視鏡モニターを見ながら小さい傷で手術が可能



▲手術で使用する硬性鏡



図2. ICG. 血管を流れる血流が白くうつる

3月の歳時記

モクレン（木蓮）

近森病院5階C病棟

看護師 小松 倫子



もうすぐ春ですねえ～、ちょっと寄り道しませんかあ～。今年とはとくに寒い日が続きます。街中でみかけることは少ないですが、モクレンの花を花屋さんで見かけました。ふらっと、温かい日に街中を離れ、散歩として山歩きをするのもどうでしょうか。一足早い春を感じるのもいいかなものではないでしょうか。

こまつ みちこ

絵：筆者





「できる ADL」から 「している ADL」へとつなぐ看護

近森オルソリハビリテーション病院
回復期リハビリテーション看護師 野村 由香

回復期リハビリテーション病棟は、急性期病院での治療を終えた患者さんに対して集中的にリハビリを行ない、住み慣れた地域や自宅で生活が送れるよう、障害のできる限りの改善と ADL の自立を図るといった役割をもった病棟です。

患者さんが安全にリハビリを行えるよう、健康状態の観察・睡眠や排泄リズムを整える・食事の摂取状況や栄養状態の把握などが看護師の役割の一つです。

リハビリスタッフによるリハビリは 1 時間～3 時間ほどありますが、それ以外の時間をどのようにリハビリに繋げていけるかが大事になります。食事・排泄・入浴・更衣・移動など全ての生活動作がリハビリに繋がっていくので

す。

個別リハビリで習得した能力を病棟生活で生かせるように「できる ADL」から（日常的に）「している ADL」へと繋げていくことが回復期リハビリテーション病棟の看護師の最も重要な役割ともいえます。

患者さんやそのご家族が安心して自宅退院するためにはどんな問題があり何が必要とされているか、また患者さんの能力を見極めながらご家族の負担を最小限にできるように支援していく



ことが重要と考えています。

今後も患者さんを取り巻くチームと協働しながら質の高い看護を提供できるよう努力していきたいと思えます。

のむら ゆか

ザ・RINSHO 株式会社アスティス

正確・迅速・丁寧に！

株式会社アスティス 高知業務センター
SPD 課リーダー 須藤 忍さん

(株)アスティスは、四国全県で、医薬品卸売事業を展開し、医薬品メーカーと医療機関の繋ぎ役として、医薬品の安定供給と情報提供を行なう会社です。

近森病院に医薬品 SPD (Supply Processing & Distribution: 院内物流管理) が導入され、以来、弊社がその業務を担当させて頂いています。4 名からスタートしたスタッフ数も、現在では 9 名に増員されました。

SPD としての業務内容は、

- 薬剤部で発行され、調剤された薬剤を各病棟・部署に搬送。
- 各病棟・部署で発行された伝票を回収し、薬剤や製剤の取り揃え業務。
- 薬剤部内の医薬品の在庫補充や臨時

医薬品の会社への発注業務。

■病院内の医薬品の期限管理を年 2 回実施、及び医薬品の交換業務。

■薬剤部内の医薬品の期限の管理のため、棚卸を毎月実施。など、薬剤部の

一員となって毎日働いています。

これからも、正確に取り揃え、迅速、丁寧に各病棟・部署に医薬品をお届けさせていただきます。

すとう しのぶ



▲手前、段ボールをもっている方が筆者

ハッスル研修医

ドクターG (ガス)



初期研修医 行元 志門

近森病院で研修を始めて1年が経とうとしていますが、少しずつながらも仕事に慣れてきました。みなさんにもやっと名前を覚えてもらえたでしょうか。就職したばかりのころは、「ゆきげん」、「ゆきさだ」、「ぎょうげん」、「ぎょうもん」など、バラエティーに富んだ呼ばれ方をしました。他人かと思って何度か無視してしまったことを、この場を借りて謝罪します。(笑)

愛媛から高知に出てきて7年が経ち、ようやく医師として働き始めました。家業のガス屋を継がず医師になった私ですが、学生のころとは違って、責任の重さや医療の難しさに日々直面しています。でも最近になって忙しくたいへんな日々のなかでも、自分のすべきことや研修医である今の自分にしかできないことがある、と思えるようになりました。

外来患者数や救急車受入件数が多い近森病院にいただけで成長しているとするのではなく、そこから次へのフィードバックがしっかりと実践できるよう頑張ります。タイトルのようにサービス業のサラブレッドとしての活躍にご期待ください。

ゆきもと しもん

私の趣味

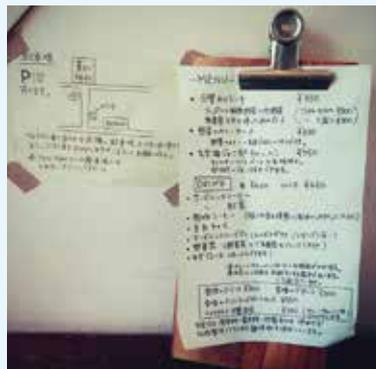
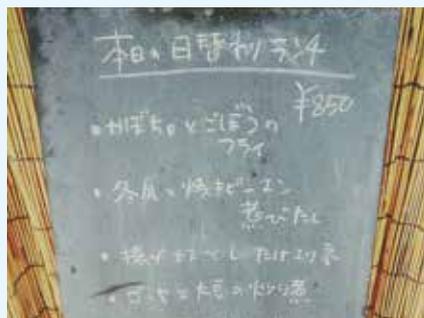
お気に入りのカフェで
のんびり過ごす

近森病院総合心療センター4階
看護師 後藤 麻友



熱しやすく冷めやすい性分で浮気癖があるので、趣味と呼べるものはないですが、今一番熱が入っているのはカフェ巡りでしょうか。

子どもの頃はほとんど外食の機会がなかったので、一人カフェデビューはとても緊張したことを覚えています。今では一人で食事をするくらいは平気で、まわりのお客さんのおしゃべりに聞き耳を立てて楽しんだりしています。お店によって客層が違うので、話題もそれぞれ。そのお店のジャンルに合った流行がチェックできたりしますよ。



近森病院から近場で皆さんにおすすめしたいお店は、洞ヶ島町のマクロビオティックカフェ『BIOキッチン tuturu』です。肉・魚・卵は使わず、豆腐等の豆製品や無農薬野菜がメインで、調味料まで無添加にこだわっています。むちむちの玄米ご飯と5-6種類のおかずお味噌汁がついて、1000円でおつりがくる、心も体も大満足のランチが食べられますよ。一押しです。

その後は、読書をしたり、スケジュールをチェックしたり、スマホのメモ帳で考え事をまとめたりしながら、ゆったり心地よい時間が過ぎていくのを楽しんでいます。好きなテイストの雑貨で囲まれたおしゃれなお店でおいしい料理をゆっくり味わって食べる、心行くまで1人でのんびりする、日常のちょっとした贅沢が私のとびきりの栄養剤です。

ごとう まゆ



お弁当拝見 59 妻のつくる弁当

近森病院言語療法科
言語聴覚士 河村 英行



うちの弁当は妻が作ってくれています。言語聴覚士という仕事柄、患者さんの昼食場面に介入することが多く、自分たちの昼食は遅い時には14時を過ぎることもあります。

独身時代は売店で弁当を購入していたため、つつい空腹に負けて、余計な物を買っていました。結婚後は、妻が弁当を作ってくれるため、売店に行くことが減り、余計な物を

買わずにすんでいます。これからも、妻の弁当を食べて、仕事を頑張ります!!
かわむら ひでゆき



東京大学大学院教授
秋下雅弘先生



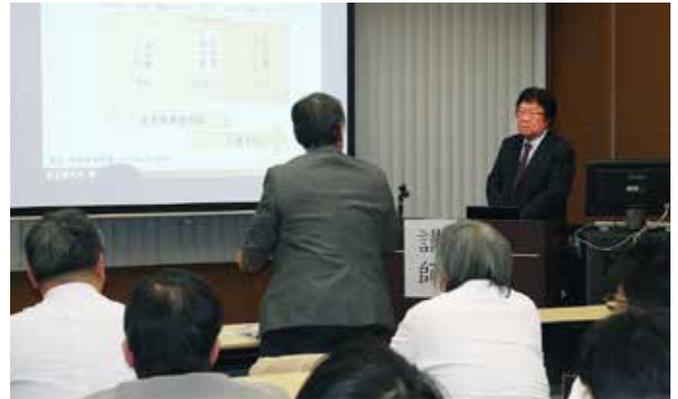
名古屋大学大学院教授
葛谷雅文先生

5回の講演を通して

社会医療法人近森会

学術担当理事

土居 義典



第4回の東京大学大学院教授の秋下雅弘先生による「これからの高齢者医療：多病とポリファーマシーへの配慮」のご講演では、多病やフレイル・認知症など、私たちが日常臨床でおさえおくべきポイントをふまえて、いかに投与薬剤を見直すかが示された。厚労省のガイドラインの作成に向けての

作業も、始まっているとのことであった。

第5回の名古屋大学大学院教授の葛谷雅文先生による「超高齢社会におけるサルコペニア・フレイルの重要性」の講演では、栄養に関する話題を中心に、実臨床でのサルコペニア・フレイルにいかに対応するかの話がなされ

た。

シリーズ5回の講演を通して私たちが学んだことが、当院の医療の質の向上に少しでも役立つことを願っている。来年度も新しい切り口でのシリーズ講演を企画したいと考えている。

どい よしのり

リレー エッセイ

ラッキー & ハッピーな日々

近森病院外来センター看護師 坂本 真由美



周りの人達から当たり運が良いとよく言われます。思えば子供の頃から、両親に「一緒に買うと当たる」と、宝くじを一緒に買いに行ったり、懸賞でカメラや旅行券などが当選したり、良い事がありました。大人になってからも幸運は続き、コンサートチケットを予約すると座席が最前列だったり、偶然有名人と交流でき食事をしたりなど嬉しいこともありました。

運良く結婚して、可愛い息子2人に恵まれ賑やかな毎日。一緒になってあれこれ面白そう楽しそうと、思い立ったら吉日でトライ。去年は子供達が大好きなアンパンマン列車で

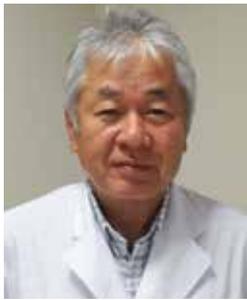
出かけてみたいと、出発直前に宿

も決めず列車の切符を購入し家族旅行へ。JR高知駅の出発ゲートへ向かうと駅員さんに呼び止められ、何と「アンパンマンシート20万人達成!!」とアンパンマングッズのプレゼントや記念撮影が! 注目の中、子供達は大喜び!! さらに帰りの駅では、ドクターイエロー(新幹線のお医者さん。運航ダイヤが非公開で目撃することが難しく、見ると幸せになれるそうです。)がホームに停車していて、大興奮しました。他にも紹介しきれない小さなラッキーが多くあり、楽しい日々を過ごしています。

看護師になりたいという夢が実現し、近森病院に入職する事ができ、多くの人に支えてもらいながら仕事できています。周りの沢山の方々に感謝です。次のラッキーは何かかな?

さかもと まゆみ





その人らしさを失くすことなく、 心豊かに生きていけるよう

近森病院総合心療センター
センター長 明神 和弘

田村雅一先生お一人で

今年4月に近森病院精神科は、開設（創立）50周年を迎えることになりました。節目ということで田村先生にはこの誌面に4回に渡って院長就任当時の思い出やその後の当科の歩みや、当科の特徴でもあるチーム医療をどのようにして根付かせたかなどについて書いていただきました。

その頃は医師は先生お一人で何もかも自分で決断しなければならず、色々とお苦勞も多かったのではないのでしょうか。今回先生からバトンをうけました。思いつくままにお話をさせていただきたいと思います。

診療部門と在宅部門の充実

私は平成10年に田村先生から第二分院の院長を引き継ぎましたが、精神科医療に関しての考えは田村先生と全く同感であり、当科の早く治して入院期間を短くし社会の中で患者さんを支えていく。そのためチームが協力して治療を行うといった診療システムは、素晴らしく思われたのでそのまま引き継がせていただき、現在も続けております。

私たちはこの診療システムをより強化し、ハッキリと目に見えるようにしようと、精神科専門の訪問看護ステーションの設立、デイケアの拡大や充実、援護寮、生活支援センターなど精神障害者の地域での生活を支援する在宅支援部門の強化を図ってきました。

診療部門に関しては徐々に医師数も増えて来ましたが、平成15年には病院を新築し病棟機能の再編を行い、急性期、ストレスケア、回復期病棟に分けより効率良くベットを利用できるようにしました。ストレスケア外来やうつ病の患者さんの復職や再就職を支援するデイケア「パティオ」も開設しま



した。

こうした診療部門と在宅部門が充実したため、それらが互いに連携を取り協力しながら車の両輪として治療を押し進めていくといった、当科のケアシステムがより明確になったように思います。

総合心療センターとしてスタート

平成25年には104床のベットを60床に減らし、急性期に特化して多少残念に思うところもありましたが、第二分院を廃止し、近森病院の精神科「総合心療センター」として新たに出発することになりました。ベットを減らした影響はほとんどなく、現在入退院をうまく回転し、私たちのケアシステムがうまく動いていることをうれしく思っています。

患者さんが社会で生活できる時代に

50年前がどうだったかまではよくわかりませんが、私が医者になった頃と比べても、精神科医療は随分変わってきました。薬が良くなったり利用できる社会資源も増え、人々の精神障害に対する見方も変化し、長期に入院

される患者さんは本当に少なくなりました。多くの患者さんが社会の中で多少の援助を受けながらも生活できることは本当に嬉しいことだと思います。疾患についても変わってきております。典型的な統合失調症はなくなり、時代が生んだと思われるような様々な障害も出てきており、対応が難しくなってきておりますし、精神科医療の難しさを感じております。

その人らしさを失くすことなく

まとまらない文章になりましたが、総合心療センターの理念は「私たちはその人らしさを失くすことなく社会の中で前向きに、心豊かに生きていけるよう全力を応援します」といった文面です。今でこそリカバリーを目指す治療がいられておりますが、私たちは10数年前からこれを理念に掲げ治療を行ってきました。そのことを誇りに思っておりますし、これから先も理念を忘れずコツコツと地道に努力を重ね、更なる歴史を積み上げていきたいと思っております。

みょうじん かずひろ



救命救急センターで運用が始まりました。

近森病院画像診断部
診療放射線技師 岸田 豊和

2018年2月に64列CTが本院1階の救命救急センターに新たに設置され、3台体制となりました。

今回導入されたCTの特長は、一体型のデジタル検出器を搭載し、逐次近似応用再構成により低被ばく撮影を実現しています。金属アーチファクト低減処理も搭載し、整形領域の診断に役立っています。

以前から使用しているGE社の後継機で操作性も統一しており、24時間高品質な検査を提供しています。撮影室も広く救急搬送にもスムーズに対応できることで検査時間短縮となり、年々増加している救急撮影や、一般外来撮影の待ち時間を大幅に短縮しています。

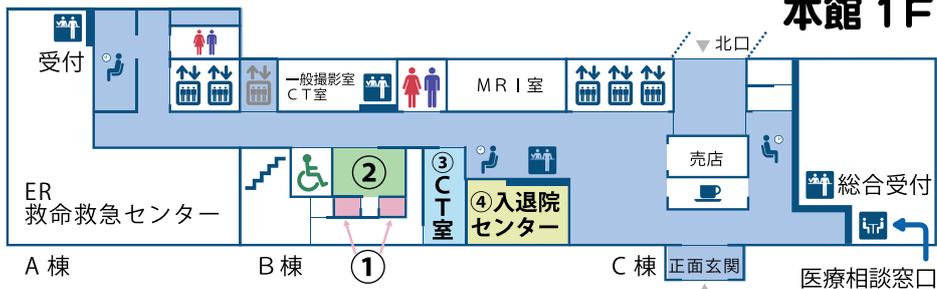
きしだ とよかず



▲更衣室を2室設置

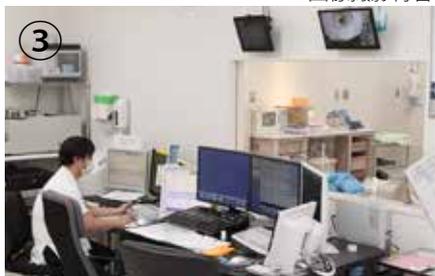
CT室増設に伴い、本館BC棟1階フロアが変更されました。

本館 1F



▲画像撮影待合フロア 撮影室前に待合スペースがあり撮影の呼出がスムーズに

▲▶ CT室・操作室
院内で一番広い1室です。以前は一つのCTで本館の入院、救急・外来患者さんの撮影をしていましたが、2室になり時間が短縮されます。また、専用通路も整備され、ERからの患者さんのプライバシーにも配慮されます



▼二つの完全個室になり、落ち着いた環境となりました

▲▼入退院センター プライバシーに配慮し、二つの個室が作られました。こちらで入院時の説明を行います



感染対策・医療安全作品コンテスト

10月1日 ~ 11月30日



2017年10月15日は「世界手洗いの日」、そして11月19日～25日は「医療安全推進週間医療安全推進月間」でした。

近森会グループでは、感染対策・医療安全の意識向上を目的として、10月1日～11月30日に感染対策・医

療安全作品コンテストを開催しました。応募総数151作品（23部署）から入選30作が選ばれ、職員投票によって最優秀賞が決定しました。2月7日に表彰式を行いました。

感染制御部・医療安全管理部

| | | | | | | | | |
|---|---|---------------------------------|---|---|--|---|--|--|
| <p>★ 最優秀賞 病理検査室</p> <p>高齢者 違う名前前で 返事する</p> | <p>★ 理事長賞 北5・6階病棟</p> <p>まっいいか 悪魔のささやき 白衣の天使</p> | <p>★ 近森病院院長賞 内視鏡センター</p> | <p>★ 管理部長賞 救命救急病棟</p> <p>嫌な予感 思ったその場で ホウレンソウ</p> | <p>★ 統括看護部長賞 診療情報管理室</p> <p>機嫌悪い 態度に表情 その行動 周りに伝染 事故招く</p> | <p>★ 近森リハビリテーション病院院長賞 救命救急病棟</p> <p>知ってるの？ その手の細菌 35億</p> | <p>★ 近森オルソリハビリテーション病院院長賞 オルソ4階</p> <p>クレームも 対応いかに 信頼の輪</p> | <p>★ 医療安全委員長賞 看護部</p> <p>「点滴」「採血」「出棟確認」MTP P (DA)</p> | <p>★ 感染対策委員長賞 診療情報管理室</p> <p>清潔も 不潔も区別 できない人に 任せられない 私の治療</p> |
|---|---|---------------------------------|---|---|--|---|--|--|



職員対象 第78回

第7回日本在宅看護学会学術集会

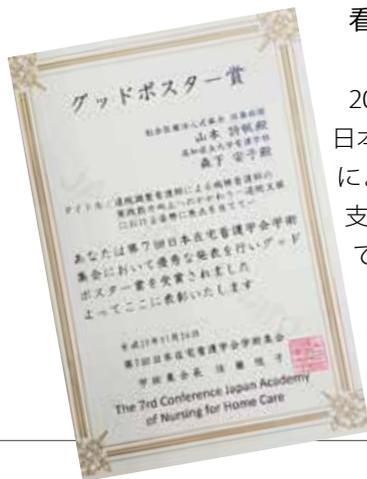
2017年11月25、26日

チカモリ・シネマクラブ

学術集会グッドポスター賞受賞

チームで行う 退院支援を目指して

近森病院地域医療連携センター
看護師長 山本 詩帆



2017年11月25、26日に山梨県で開催された第7回日本在宅看護学会学術集会において、「退院調整看護師による病棟看護師の実践能力向上へのかかわりー退院支援における姿勢に焦点を当ててー」というタイトルで発表しました。

6都道府県の病院で活躍している退院調整看護師にインタビューを行った質的研究の結果の一部です。これらの結果を活かしながら日々活動していきたいと思います。

やまもと しほ

ご遺族の皆さまと共に

近森病院病理診断科

部長 円山 英昭



第4回病理解剖体慰霊祭は平成29年に病理解剖させていただいた15名の皆様のご冥福をお祈りすると同時に、解剖をご承諾いただいたご遺族の皆様にご心からの感謝の気持ちを込めて、平成30年2月17日（土）に当院の大会議室で行われました。

当日はご遺族の皆様と共に、診療に関係した院内各職種のスタッフ、初期臨床研修医や附属看護学校の生徒が参列しました。私達は解剖後、ご生前の臨床事項と解剖により直接得られた結果とを詳細に検討し、病態やお亡くなりになられた原因をより正しく知ることが出来ました。

本院の看護学生は第1期生が今春、いよいよ医療の第一線に参画します。研修医は一連の学習を通し、人間性を向上させること、病態や医療をより深く学ぶことが出来ました。

職員はそれぞれ解剖により得られた貴重な経験を大切に、これからも最善、最適の医療の実践に努めます。合掌。

えんざん ひであき



▲研修医より追悼とお礼の言葉



出張報告

2018年1月30日～2月3日



上海交通大学、浙江大学を見学してきました。

近森病院麻酔科

部長 末盛 智彦

1月末に中国の上海交通大学、浙江大学病院を見学訪問させていただきました。今回の訪問は岡山大学の前麻酔科教授、前学長であり、現在は上海交通大学で教育、日中麻酔科の友好にご尽力されている森田潔先生のご好意により、実現したものです。

上海交通大学、浙江大学ともに、中国では5本の指に入る大きな大学です。上海交通大学では心臓外科のICU、および手術室を見学させていただきました。

訪問時には感染性心内膜炎の手術が行われていましたが、入江副院長も熱心に術野をご覧になり、執刀医の先生の技量に感嘆されていました。上海

交通大学は医学教育のシミュレーションにも力を入れており、点滴から内視鏡手術まで、さまざまな手技を模擬トレーニングできる設備を整えています。

浙江大学病院では、以前岡山大学に留学されていた何先生に再会し、ICU、手術室やペインクリニックを見学させていただきました。浙江大学病院は新しく、広大なキャンパスがオープンしたばかりでしたが、キャンパスの開設、運営は官民一体となっており、変革していく中国の一端が見られました。

今回の見学には、森田先生が同行し



てくださいましたが、「中国には大きな可能性がある」と常々おっしゃっておられました。個人的には中国の躍進ぶりにも驚きましたが、学長を退かれても異国で挑戦を続けられる師匠の姿勢に、教えを受ける思いでした。

すえもり ともひこ

ニューフェイス ①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

● 近森看護学校通信 24 ●

卒業式を迎えるにあたって

近森病院附属看護学校 竹村 多加

近森病院附属看護学校1期生は、3月9日に卒業式を迎えます。近森会グループの方々には、入学時から先輩も後輩もない1期生のためにあふれんばかりの愛情をもって関わっていただきました。教職員も初めての学生であり、戸惑いながらも手塩にかけて育ててきました。入学当初、看護とはほど遠く幼かった1期生は、教職員や仲間たちとともに少しずつ

少しずつ看護を目指す専門職業人へと成長することができました。しかし、卒業はゴールではなく出発で、これからが本番です。その前には、看護師国家試験合格という使命があります。これまでご指導いただいた皆様には、卒業式という舞台をもって感謝の気持ちを表したいと思えます。ありがとうございました。

たけむら たか

● 人の動き ●

敬称略

● おめでとう ●

図書室便り 2018年1月受入分

- AGP 活用インスリン治療免許皆伝高血糖低血糖を見逃さない / 西村理明
 - 糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル / 日本糖尿病学会 (編著)
 - 4Steps エクセル統計 / 柳井久江
- 《別冊・増刊号》
- 臨床栄養別冊栄養指導・管理のためのスキルアップシリーズ Vol.5 脂質異常症の最新食事療法のなぜに答える基礎編 / 寺本民生 (他編)
 - Emergency Care 2018年新春増刊オールカラービジュアルでわかる救急・ICU患者のME機器からみた呼吸・循環管理 / 阿南英明 (編)
 - BRAIN NURSING 2018年春季増刊オールカラー脳神経疾患病棟新人ナースがかならずぶつかるギモンQ & A190 / 日本脳神経看護研究学会 (監)
 - INFECTION CONTROL 2018年春季増刊オールカラー現場ですぐ生かせる! ICTのためのまると感染症レクチャー / 矢野晴美 (編)

2018年1月の診療数 システム管理室

近森会グループ

| | |
|--------|---------|
| 外来患者数 | 17,742人 |
| 新入院患者数 | 970人 |
| 退院患者数 | 869人 |

近森病院 (急性期)

| | |
|--------------|---------|
| 平均在院日数 | 15.40日 |
| 地域医療支援病院紹介率 | 65.97% |
| 地域医療支援病院逆紹介率 | 138.78% |
| 救急車搬入件数 | 573件 |
| うち入院件数 | 287件 |
| 手術件数 | 442件 |
| うち手術室実施 | 292件 |
| うち全身麻酔件数 | 161件 |

- 2018年1月 県外出張件数 ●
件数 30件 延べ人数 44人

● 編集室通信 ●

昨年友人に勧められた原田マハには、やはり今、固め読みしている。美術の造詣がないので絵画集を開きながら読み進め、最近では、パリに実物を見に行きたいなどと思っている。最新刊『たゆたえども沈まず』を読み始めた。このタイトルの言葉は、パリ市の紋章にある標語だ。標語の歴史・意味もかみ締めながら、作品を愉しんでいる。(陽)



◀株式会社ヴァイタリーの
竹田陽介先生

近森病院のファンを作る！ ファンになる！

近森病院循環器内科
部長 中岡 洋子



1月29日に株式会社ヴァイタリーの竹田陽介先生をお招きし‘SNS全盛期時代にどう生き残るか’と題してご講演いただきました。竹田先生は、医療コミュニケーション支援サービスを提供する他、循環器内科医でもいらっしゃいます。

スマートフォン一人一台が当たり前の時代に、患者さんや救急隊、他施設の医療従事者に対して、どのように近森病院をアピールし、ファンになっていただくかを一緒に考えました。当院

のホームページアクセスを分析し問題点を抽出いただき、今後Facebookとのリンクを充実するなど、改善策をお示しいただきました。また、職員自らが広報活動に取り組むことにより自施設を好きになり、魅力ある職場、素晴らしい人材確保につながるというお話もあり、今

後楽しく取り組んでいきたいと思えました。なかおか ようこ



本館受付前●水槽案内 僕らはみんな生きている 14



レッドソードテール



赤い剣（ソード）のようなテールをもつ。雌から雄に性転換する熱帯魚ともいわれている。が、それを否定する群馬大の論文もある。真相は謎だが、雄から雌にはならないのだというから、うーん不思議だ。編集室

ワイン講座 ● 61

ぶどう品種を知り、個性を探る その41 ポルトガル篇

エンクルザード

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、ポルトガルには認定されたぶどう品種だけで、なんと250種類以上と云われる品種があります。

また、ぶどう栽培の歴史も古く、混植、混醸がメインのところが多く、代々受け継がれてきた畑に、どの品種が栽培されているか正確に把握出来ない生産者も数多く存在します。この事は、今までその必要性が無かったからでしょう。また、個々のぶどうの特性を十分に引き出すことが出来ず、ごく一般的なワインに甘んじている、高品質なワインを生産しようとする意欲のある生産者が少なかったかとも思える状況です。

この事は、日本国内におけるポルトガルワインの知名度を考えてもうなずける事かと思えます。

しかし、ポルトガルにも、1990年代後半から、独自の品種100%、又は、主

エンクルザード／キンタ・ドス・ロクス／ポルトガル、ダン地方●エンクルザードの最高のワインを造る生産者。従来、新樽を使用する生産者は存在しませんでした。彼の成功により、この品種が一躍ポルトガルを代表する白ワインと評されています。エレガントな果実香と、樽熟成からくるやさしいバニラ香がバランスよく、味わいはフレッシュな果実味、柔らかで爽やかな酸味、長く心地よい余韻。

として造る生産者が各地で現れ、今最も注目される生産国としても知られるようになりました。

このエンクルザードは、ポルトガル北部のダン地方では最も重要な品種で、一般的には、透明感があり、やや緑がかったゴールド。柑橘系の風味に、しっかりとしたミネラル、爽やかな酸味を感じさせてくれます。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



近森会 保育室 そると

2月2日、元気に鬼退治をしました。



医療スタッフの臨床現場での 先進的な取り組みや活発な活動の発表

演題数 65 (内、口演発表 49、ポスター発表 16)

社会医療法人近森会 学術担当理事 土居 義典



第一回の学術集会は素晴らしい学術集会になりました。質の高い発表と、熱のこもった質疑応答を通して、すべての職種の活動を全職員が共有する場となりました。これからの当院の学術的発展とさらなる現場の医療の質の向上を願ってこの学術集会を企画した一人として大変うれしく思います。

どの演題にもよく頑張って準備した

後が伺え、各部署ごとの連携や各医療スタッフの臨床現場での先進的な取り組みや活発な活動の発表は、一般の学会よりもレベルの高い優れた発表であったと思います。特に優秀演題の7題は、その独創性、情報の論理的な展開、呈示のわかりやすさなどいずれも素晴らしい発表ばかりで、私たちも大変勉強になりました。

この第一回の学術集会は近森会グループが学術的に次のステージに進むための新しいスタートとなる学術集会であったと考えます。次回の学術集会にも大いに期待したいと思います。

最後に学術集会の開催にあたって、準備・運営に携わってくださった関係各位に感謝申し上げます。

どい よしのり



▲ 360名の参加があり大盛況だった



▲ 前列左端オーディエンス賞受賞岡崎、右端最優秀演題賞受賞米谷

最優秀演題賞

オーディエンス賞

| 優秀演題 (7題) | 所属 | 演者 |
|--------------------------------------|-----------------|--------|
| 心臓血管外科周術期患者を対象とした、ハート食プロジェクトを開始して | 近森病院臨床栄養部管理栄養士 | 太田 由莉恵 |
| 当院における経管栄養の離脱に影響を与える因子の検討と今後の課題 | 近森病院臨床栄養部管理栄養士 | 福間 睦美 |
| 臨床現場における細胞検査士としての役割～迅速細胞診の実際 | 近森病院臨床検査部臨床検査技師 | 米谷 久美子 |
| 地域医療連携における透析部門の役割 | 近森病院臨床工学部臨床工学技士 | 岡本 歌織 |
| 整形外科入院患者の血糖管理に対する薬剤師介入の有用性 | 近森病院薬剤部薬剤師 | 橋詰 万里子 |
| 当院で院内発症した脳梗塞患者の現状分析～早期治療への課題を明らかにする～ | 近森病院 SCU 病棟看護師 | 岡崎 瑠美 |
| 当院での低亜鉛血症の実態と院内製剤亜鉛注射液「チカモリ」の安全性・有用性 | 近森病院薬剤部薬剤師 | 尾崎 正和 |



ポスター発表



若手座長も多く起用された

- アンケート結果より ●
- * 学術集会はいかがでしたか？
満足・やや満足 95%
- * コメント
- ・現場で活躍する若手の発表が多く、他職種への理解が深まった
- ・日々の業務で知ることのできないことがわかり面白かった
- ・チーム医療の質と連携のためになる

特別講演

超高齢社会の地域包括ケアシステムにおける在宅医療の変容

講師 片山医院 院長 片山 壽先生



全国的に有名な「尾道方式」といわれる地域包括ケアシステムのモデルを作り上げられた片山先生に、実例を提示し分かりやすくお話いただきました。

看多機（看護小規模多機能型居宅介護）などとの連携を通じて、在宅主治医とのチーム医療が在宅医療の本質であると強調されました。

各会場（口演3、ポスター4）で活発な質疑が

